

第5号議案

地域資源の適切な保全管理のための推進活動

今後農業者の減少が更に進み、現在多面的機能支払交付金を利用している水路や農道の草刈り作業などにも労力不足などの問題が発生することが懸念されます。そのための対策などを年1回以上話し合うことが、当交付金を受給するために必須の活動となっています。

今井活動組織の現状と問題点

昨今の、地域の過疎化や農家の減少に伴い、担い手農家の耕作面積が増えているので、耕作者だけでは農地や水路や農道の草刈りや溝さらいに手が回らなくなる可能性が高い。
また、地域内の農家が少ないため、ほとんどが入り作である。

対策

- ・ 入り作等の近隣の担い手との協力・役割分担に基づく活動の実施（入り作の担い手農家の負担を軽減する体制づくり）

具体的な活動

- ・ 当事業を利用し、地域の非農家で、「有志の会」という水路や農道の草刈りを行う団体を結成し、入り作農家の農地維持に関する負担を軽減している。
- ・ 地元の自治会・婦人会・老人会・子ども会にも作業を依頼している。
- ・ 農業支援センターのアーム型草刈り機に、急傾斜の草刈り作業を外注し、労力不足を補う。

みんなで守ろう
農村環境

